

昭和初期 昭和元年(1926)～昭和20年(1945)



昭和2年(1927) 卒業記念写真



昭和3年(1928) 卒業記念写真



昭和4年(1929) 卒業記念写真

しょうわ ねん そつぎょう いう あきら
昭和9年に卒業した伊藤 彰さんは、
せんじちゅう せいしゆんじだい す つぎ
戦時中に青春時代を過ごされ、次のよ
つづ
うなことを綴られています。

わたし せんちゅうは ちゅうがくせい ころ
私 たち 戦中派は 中学生 の 頃に
しなじへん ぼつぱつ だいつあせんそう
支那事変 が 勃発し、大東亜戦争 には
げんえき がくとどういん たいりく こうや
現役として学徒動員され、大陸の荒野
なんかい こう
や南海の孤島に

せいしゆん たの
青春 の 楽しい
じき ささ
時期を捧げまし
わたし しょうがっこう
た。私 は 小学校
しよくいんしつ まえ
の 職員室の前の
げんかん こくみんふく
玄関 で、国民服



き あいざつ こばた て も
を着て挨拶をし、小旗を手に持った
しょうがっこう じどう そんみん かんき こえ おく
小学校の児童や村民の歓喜の声に送
ひがしのえき なに おも のこ
られて、東野駅を何も思い残すことな
しゅつぱつ
く出発していきました。

しょうわ ねん そつぎょう みつおかよしな
昭和13年に卒業された光岡慶直さ
しょうわ ねん じんじょうこうとうしょうがっこう
んは、昭和5年に尋常高等小学校に8
さい にゅうがく とし せんめい しょうがっこう
歳で入学した年から鮮明に小学校の

おも で つづ ねんせい たんにん きもの はかますがた はやしひさこせんせい こ おお
思い出を綴っています。1年生の担任は着物に 袴 姿 の林久子先生で、わんぱくな子が多く、とて
こま きおく きょうしつ なんしや ぼくしや しよくいんしつ ちゅうしん じ
も困ってみえた記憶があります。。教室は南舎と北舎にわかれ、職員室を中心にコの字でした。

ねんせい おんな せんせい みやけ の せんせい ねんせい ながわきくよせんせい たいへんきび せんせい
2年生も 女 の先生で三宅よし乃先生でした。3年生の中川菊弥先生は大変厳しい先生で、
ねんせい ねんせい ねんかん たんにん
3年生から6年生までの3年間担任していただきました。



まいしゅうどうび ごご ぜんこうびかさぎょう
毎週土曜日の午後には全校美化作業

てんちようせつ さいれい
がありました。天長節などの祭礼は
なんしゃ きょうしつ しき はず
南舎の3教室の仕切りを外して
てんのうこうごうりようへいか ごしんえい とびら ひら
天皇皇后両陛下の御真影の扉が開か
こうちようせんせい きょういくちよくご
れ、校長先生が教育勅語をおごそかに
ろうどく しょうがっこう
朗読されました。小学校といえども
げんしゆく くうき かいじょう は つ
厳粛な空気が会場に張り詰めていま
した。

にちじようせいかつ わる たい
日常生活は悪いことをしたものに対
せいさい きび せんせい
する制裁は厳しく、先生からのビンタは
みず い
もちろんのこと、水をいっぱい入れたバ
りょうて も ろうか た
ケツを両手に持って廊下に立たされま
しょうわ ねん そつぎょう
した。(昭和18年に卒業された
いとうすけみち しょうがっこう ねんせい ぼくどう
伊藤祐道さんも小学校3年生に木刀を
ちゅうだん ろうか た
中段にかまえて廊下に立たされたり、
しよくいんしつ はんになち た
職員室では半日も立たされたことを
つづ
綴っています)

ふゆ まき あたん つか
冬は薪ストーブで亜炭を使っていました。

こうてい さくら たいぼく はる うつ
校庭は桜の大木があって春には美し
さ あき おお ぎんなん き きいろ
く咲き、秋には大きな銀杏の木の黄色
は なん い なが
の葉が何とも言えないきれいな眺めで
した。

あめ ひ ぼくしゃ ひがし ほう うてんたいそうじょう たいそう こうがくねん けんどう れんしゅう
雨の日は北舎の東の方にあった雨天体操場で体操をよくしました。高学年は剣道の練習にほと
つか
んど使っていました。

あさ はんしんしやう な じゆぎやう お すず
朝のはじまりは半鐘がカンカンと鳴り、授業の終わりは鈴でした。



昭和12年(1935) 卒業記念写真



昭和12年(1935) 卒業記念写真



昭和12年(1935)卒業生 修学旅行(清水寺にて)

が づ に ち か かん そんない
12月1日から2日間は村内の
のうさんぶつ と も しやうがっこう じどうせいと
農産物と共に小学校の児童生徒
さくひん てんじ むら せいねん
の作品が展示され、村と青年と
じどうせいと いったい おこな
児童生徒が一体となって行われ
まつ
る祭りがありました。

しやうわ そつぎやう いうあいこ
昭和20年に卒業した伊藤愛子さ
せんじか しやうがっこう ようす つづ
んは戦時下の小学校の様子を綴っ
ています。

わたし はいせん とし そつぎやう
私は敗戦の年に卒業しました。
わたし しやうがっこう じだい いま
私たちの小学校の時代は今の
しやうがくせい ちが くる かな
小学生とは違い、苦しい悲しみを
せお い が づ に ち
背負って生きていました。3月10日
りくぐんきねんび ちゅうこんひ まえ
の陸軍記念日には忠魂碑の前で
せんぼつしゃ いれいさい おこな
戦没者の慰霊祭が行われ、
せんそうしゅつせい せんぼつしゃ いれいさい こ
戦争出征と戦没者の慰霊祭も子ど
ころ ひそう きもち せんご
も心に悲壮な気持ちでした。戦後は
じんじやうしやうがっこう こく민がっこう
尋常小学校から国民学校になりま
せんちゅう せんせい きび
した。戦中の先生たちは厳しいイ
きぶん わる
メージがありますが、気分が悪くな
こうちやうしつ となり しゅくちよくしつ やさ
ると校長室の隣の宿直室で優しく
いた
劳わっていただけました。



八坂神社付近で薪拾い

ねんせい ころ まき せおい おこな
3年生の頃からはストーブの薪の背負いだしを行
せおい かね で ちよきん
背負いをするとお金が出ましたのでそれを貯金しまし
うてんたいそうじやう わらぞうり つく たいかい おくがい
た。雨天体操場では藁草履作り大会をやったり屋外では
ちゃ は
お茶の葉をつんだりしました。



昭和13年(1936)新入生



戦勝祈願を八坂神社で行っているようす



東野出身の出征する兵士

しょうわ ねん そつぎょう いう たかひろ
昭和24年に卒業した伊藤公博さ

つぎ せんごちよくご
んは次のように戦後直後のことを
つづ
綴っています。

しゅうせん わたし しょうがっこう ねんせい なつ
終戦は私が小学校3年生の夏で

だんし しんちゅうぐん きん ん
した。男子は進駐軍に金たまを抜か
れ、女子はどこかへ連れていかれる

じょし つ
という噂が流れ、子ども心にとて
ふあん どうじ たいへん じだい
も不安でした。当時は大変な時代

ぶっし けつぼう いちじる わる き
で物資の欠乏が著しく悪く、着る
く はいきゅうせい
もの、食うもののすべてが配給制

わたし ながつ
でした。私たちのクラスも長靴の
はいきゅう そく
配給がありましたが、2・3足だっ

ひ あた
たのでくじ引きでした。くじに当
わたし うれ ねむ まえ まくらもと
たった私は嬉しくて寝る前は枕元

そな お なが
に揃えて置いて、それを眺めながら
どこ はい うれ
床に入りますが、嬉しすぎてなか

ねつ どこ で
なか寝付くことができず、床から出
ながつ は へや なか ある
て長靴を履いて部屋の中を歩き

まわ ははおや
回ったので母親にしかられました。

しょうわ ねん そつぎょう はっとりみちこ
昭和25年に卒業した服部道子

だい じせきたいせん ま ただなか
さんは第2次世界大戦の真っ最中

しょうわ ねん がつ しょうがっこう にゅうがく
の昭和19年4月に小学校に入学

しゅうせんちよくご ようす
したところから終戦直後の様子を
つづ
綴っています。

した うんどうじょう うね つづ うんどうかい うえ うんどうじょう おこな
下の運動場には、さつまいもの畝がうんざりするほど続いていて、運動会は上の運動場で行って
うんどうかい なにみ じゅうごや つきさま み おど
いました。この運動会で「うさぎ うさぎ 何見てはねる 十五夜 お月様 見て はねる」を踊ったよ
きおく
うな記憶です。



下の運動場はさつまいも畑

まいにち ちょうれい
毎日、朝礼があつて
こうちょうせんせい はなし きい
校長先生の話聞いてから
こうしん きょうしつ はい
行進して教室に入っていました
とうじ ぎょうじ
だが、当時はとにかく行事が
おお しょうがつがんとん がっこう
多くて、正月元旦も学校で
ねんが しき とし
年賀の式があつて、「年のはじめの…」を歌っていました。

ねんせい なつやす しゅうせん じゅう みるしゅしゅぎ い たすうけつ
2年生の夏休みに終戦になり、それからは自由と民主主義とか言われるようになりました。多数決
ことば たんにん せんせい はなし あたま はな
という言葉から担任の先生がこんな話をされたことが頭から離れません。

にん こ がっこうかえ し ひと いえ かき と たべ い だ なか
「5・6人の子が、学校帰りに知らない人の家になっている柿を取って食べようと言い出した。中の
ひとり たにん いえ かき はんたい たすうけつ かき と みな
一人が、他人の家の柿だからと反対したが、多数決によって柿を盗ることになったとする。皆はどう
おも
思うか。」

みるしゅしゅぎ ぜったいよ と おも
民主主義が絶対良いのかということを問われたと思います。

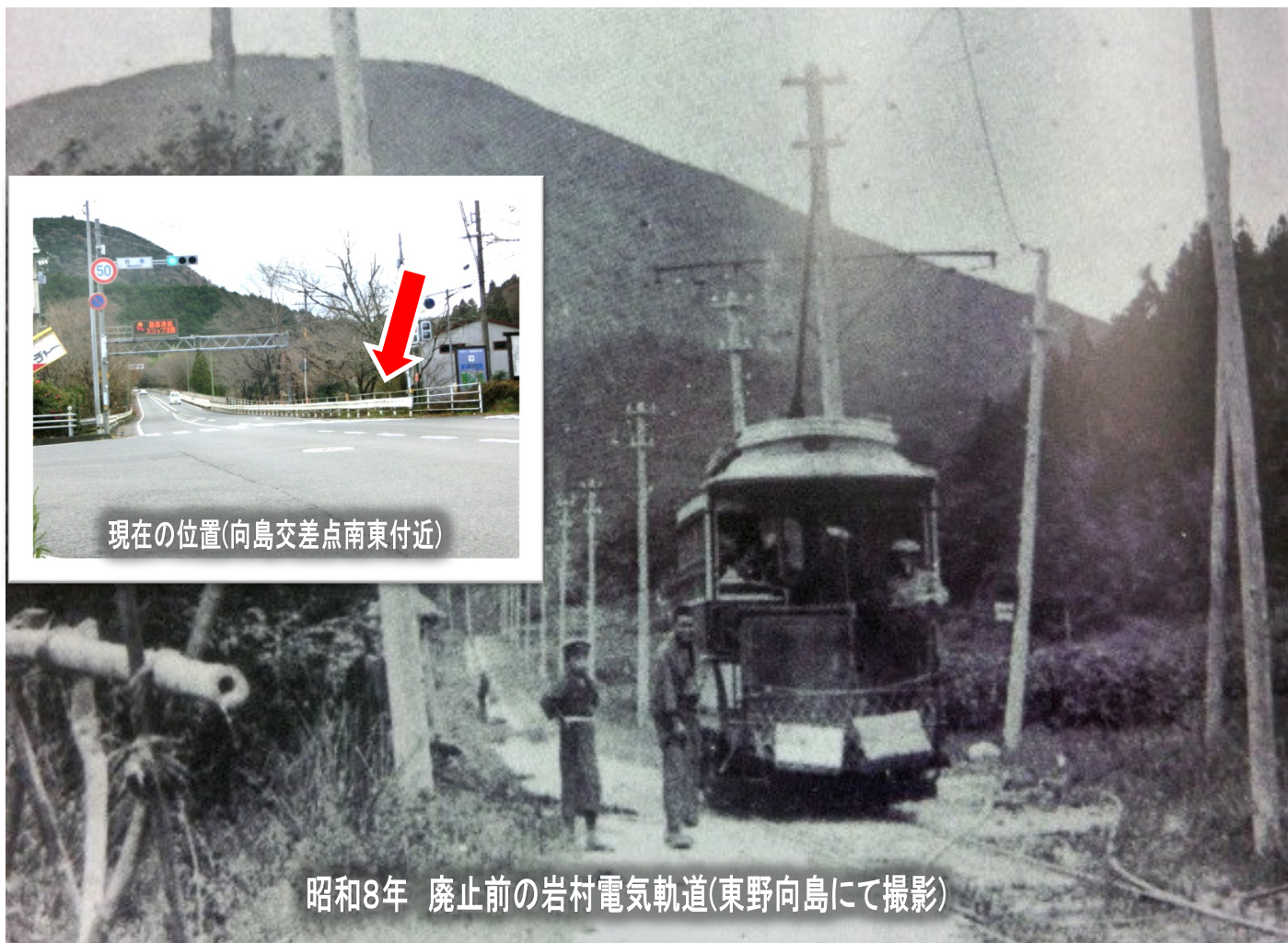
すいえい みずあ い い さそ あ
水泳は、水浴びに行こうと言って誘い合つて「おしょうでんぶち」、
「どんどこ」、「おかた」などの名前がついた場所に行きました。



阿木川での水浴びのようす



昭和12年の下の運動場完成式





昭和前期の東野小学校



昭和18年の入学写真



昭和8年(1933年)の東野駅
この駅から東野の若者たちは出征した

昭和初期に勤務された先生がの手記 東野村根性!!

しょうわ ねん がつ しょうわ ねん
昭和11年(1936)4月から昭和18年(1943)3
がつ ねん かん きん む いとうてる おせんせい しょうわ
月までの7年間勤務された伊藤輝雄先生は、昭和1
ねん がつ にち ろこうきょうじけん つづ
2年7月7日の盧溝橋事件のころからのことを綴っ
ています。



昭和11年ごろの東野小学校の先生

しょうわ ねん だいにじせきたいせん しょうわ ねん たいへいようせんそう い がっこう せんそう
昭和14年に第二次世界大戦に、昭和16年に太平洋戦争へとエスカレートして行き、学校も戦争に
きょうりよく たいせい きょうか こくみんせいしんそうどういんれい せいねんがっこうぎむせい
協力する体制を強化していきました。国民精神総動員令、青年学校義務制、
がくと しゅうだんきんろうさぎょう じっし せいしょうねんがくと たまわりたる ちよくご ちゅうがっこう いま こうこう にゅうがくしけんはいし
学徒の集団勤労作業の実施、青少年学徒に賜りたる勅語、中学校(今の高校)の入学試験廃止、
しゅうがくりょうこうせいげん しょうわ ねん しょうがっこう こくみんがっこう かいししょう しょうわ ねん がつ にち はじ
修学旅行の制限、昭和16年には小学校を国民学校と改称しました。昭和17年4月18日に初めてア
ぐんき にほんほんど こうしゅう せんそう げきか
メリカ軍機が日本本土を空襲して、戦争は激化していきました。

ひがしのむら めぐ のうそん しょうくりようがそく こま こ のうさぎょう はたら
東野村は恵まれた農村で食糧不足には困ることはありませんでしたが、子どもも農作業で働き、

がっこう ものうさくもつ そりよう きょうりよく がっこう ふゆ だんぼう まき
学校も農作物の増量に 協力 しました。学校の冬の暖房の薪は
ねんせい いじょう なんかい やま じぶん かた はこ
4年生以上で何回もかかって山から自分たちの肩で運びました。
こうとうか けんどう・なぎなた・ぜんぱんてき あつ た さむ た
高等科は剣道・薙刀・全般的にはマラソンなど暑さに耐え、寒さに耐
え、どんな難儀も耐え抜く精神鍛錬が 強調 されました。



宗久寺に疎開した名古屋市立御剣小学校の児童

げんしほうこう い ほ か せんそう か
「減私奉公」と言って、欲しがりません勝つまではと戦争に勝つため
こころ ひと がんぱ そうきゅうじ なごや みずほくかめしろちょう
にみんなが心の一つにして頑張ったものでした。宗久寺は名古屋市瑞穂区亀城町にある
みつるぎしょうがっこう じどう めい そかいばしょ ひがしのしょうがっこう たいいくしつ ぐんぶく
御剣小学校の児童80名の疎開場所になっていました。東野小学校の体育室は軍服がいっぱい
そかい ほかん ひがしのむら ひがしのむらこんじょう ぐんたい い だれ
疎開して保管されていました。東野村には「東野村根性」というものがあって、軍隊に行っても誰も
しょうすう せいせきゅうしゅうしゃ はい ぐんたい ほうめん ひがしのむらこんじょう
がごく少数の成績優秀者に入っていました。軍隊ばかりではなく、すべての方面に東野村根性が
はつき せんせい わたし み た
発揮され、先生である私から見ても、他をしのぐものがありました。

「欲しがりません勝つまでは」、「撃ちてし止まん」の教育

しょうわ ねん がつ しょうわ ねん がつ ひがしのこくみんがっこう げんざい ひがしのしょうがっこう きんむ みつおかとよこ
昭和17年4月から昭和20年3月まで東野国民学校(現在の東野小学校)に勤務された光岡豊子
せんせい せんじか がっこう たいへん つづ しょくりょうひん のぞ ふく したぎ はいきゅうせい
先生は戦時下の学校の大変さを綴っています。食料品を除いて服や下着などは配給制でしたの
で、シャツとパンツとズロースなど誰もが欲しいものばかりでしたが、配給される数が少ないため



じゅんばん き こ くば ぶつし すく
にくじか 順番かを決めて子どもたちに配っていました。とにかく物資が少な
ちようめん えんぴつ ふじゆう ねんせい れんしゅう こうてい じめん
く、帳面や鉛筆も不自由でした。1年生のひらがな練習などは校庭で地面に
か ばんしゅう ころ まきはこ このがわ い
書かせたこともありました。晩秋の頃になると薪運びを小野川まで行しまし
た。大きな子は薪を見つけて、どんどん拾うことができますが、小さな子はそ



はん な じょうたい
んなわけにはいかず、半泣きの状態で
うす しも あたた したぎ
した。薄いモンペの下は暖かい下着をつけているわけでもな
なか う さむ こ な
く、お腹はすくし、飢えと寒さとつらさに子どもたちは泣きな
まきひろ おこな こ じゅぎょう ほか いろいろ
がら薪拾いを行ってました。子どもたちは授業の他に色々な
つか まきはこ やま したが くわ かわ
ことに使われていました。薪運び、山の下刈り、桑の皮むき、ど

ひろ あつ ひがんぼな きゅうこんあつ こくさく そ ちい て どういん
んぐり拾い、あかし集め、彼岸花の球根集め…。すべてが国策に沿うようにと小さな手も動員され
もんく い ほ か ことば たいいく じかん
ました。つらくても文句も言わず、「欲しがりません勝つまでは」の言葉どおりでした。体育の時間は
うえ うんどうじょう おお さくら き した ねんせい ぼくとう じよし なぎなた じよし じぶん
上の運動場では大きな桜の木の下で5・6年生が木刀で、女子は薙刀で「エイ、ヤア。」。女子は自分

せ こ なが なぎなた かたどお ふ まわ じかんぢゅう たいそう じかん
たちの背をはるかに超す長い薙刀を型通りに振り回す。それも1時間中でした。それが体操の時間で
せいしょうねん たま ちよくご だ いらい たいりよくづく な もと ぶどう たいそう じかん
した。青少年に賜わりたる勅語」が出されて以来、体力作りの名の下にこうした武道が体操の時間に
と い だんし きょうれん う しゃ ひとこと
取り入れられ、男子はさらに 教練 もあり、「撃ちてし止まん。」の一言につきました。



空襲警報が出た!!

くうしゅうけいほう
「ウーーーーー。」空襲警報のサイレン。

はや どうぐ そと で
「みんな早く道具をカバンに入れて外に出なさい。」

こ こうとうか せいと つ げこう
子どもたちは高等科の生徒に連れられて下校しました。あっという 間 に学校は静かになりました。

がっこう そと で ぎん そら およ
学校の外に出てみると、銀のめだかが空を泳ぐようにB29爆撃機が西に向かっていた。戦争が

はげ ほんどくしゅう つづ くうしゅうけいほう で ぼうくうずきん
だんだん激しくなり、本土空襲が続きました。空襲警報が出るたびに子どもたちは防空頭巾をかぶり、帰宅しました。先生たちは空襲警報が解除になるまで学校にくぎ付けでした。真夜中でも
くうしゅうけいほう で せんせい がっこう く めいれい たいへん
空襲警報が出たら先生たちは学校に来るように命令されましたので大変でした。

